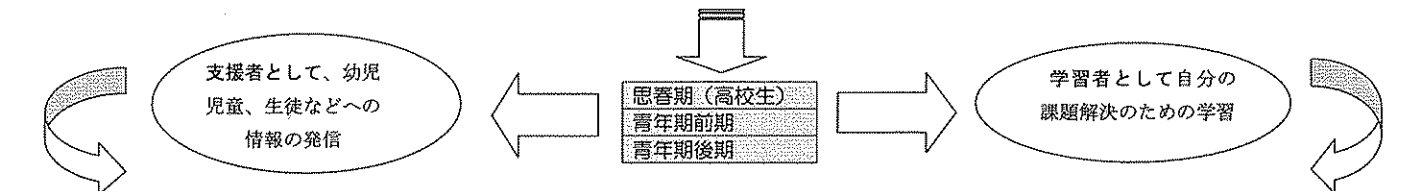


	ライフステージの特徴	生活の場 関わる場	食をめぐる現状と課題	
思春期 後期 高校生	<p>【生活環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食がない ・部活動、勉強、テレビ、ゲーム等により生活リズムが夜型となり、睡眠不足の傾向にある ・コンビニエンスストアの利用頻度が高い ・ファーストフードの利用が多い ・手伝いの機会が減り、生活体験が不足している <p>【情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友人間の情報交流が多い ・同世代以外との交流が乏しい ・食品の購入選択はテレビ、雑誌のコマーシャル、友人からの情報が優先される傾向が強い <p>【意識】・女子生徒はやせ体型志向である</p>	普通高校 調理科を有する高校 農業高校 スポーツクラブ 家庭科クラブ 保健委員会 サークル 家庭	マイナス プラス	<p>【知識】・食材の名前、調理方法を知らない生徒が多い ・食物を選択する力が不足している</p> <p>【食べること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食を欠食することが多い ・野菜の摂取量が不足するなど、食事のバランスが崩れがちである ・弁当を持参しない生徒の昼食は、おにぎり、パン類、軽食ですます傾向がみられる ・過度なダイエットを行う女子生徒が多い <p>【作ること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・料理を作る楽しさ、実感する機会が少ない <p>・酪農、栽培・加工、調理等について、知識・技術を有する生徒がいる</p>
青年期 前期 親となる前の世代	<p>【生活環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンビニエンスストアの利用頻度が高い ・ファーストフードの利用が多い ・残業などにより、十分な睡眠時間とれない ・慣れない社会生活、人間関係、仕事により、ストレスを抱えている <p>【意識・価値観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイエット志向の女性が多い ・自分の趣味にあった暮らし方を実践する <p>【自立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職、大学への進学により、ひとり暮らしがはじまる ・食事、健康は自己管理しなければならない 	大学 サークル 職場（アルバイト先） 家庭	マイナス プラス	<p>【知識】・食に関する知識や関心が薄い ・食材の名前、調理方法を知らない学生、社会人が多い</p> <p>【食べること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食を欠食することが多い ・野菜の摂取量が不足するなど、食事のバランスが崩れがちである ・インスタント、調理済み食品の利用が増える ・外食が増える <p>【作ること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・料理を作る楽しさ、実感する機会が少ない ・家庭の味を作っていく時期であるが、家庭の味、郷土の料理が伝承されていない。 <p>【食環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食をゆっくり味わい、楽しんで食べることが少なくなっている。 ・食の回らんが減る <p>・食品の特徴、成分、機能について知識を有する学生がいる ・酪農、栽培・加工、調理等について、知識・技術を有する学生がいる ・保育、養育、教育の専門家としての知識・スキルを有する学生がいる</p>
青年期 後期 親となった世代	<p>【生活環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンビニエンスストアの利用頻度が高い ・ファーストフードの利用が多い <p>【意識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事をもつ女性は、家事を負担に感じる人が多い <p>【情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊産婦検診や保健指導、育児相談等を通じて、食生活（栄養）や健康に関する情報を得る機会が増える。 <p>【生活技術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活の営みに必要なスキルが低くなっている <p>【交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを通して、地域社会とつながる機会が増え、交流の場が広がる 	職場 家庭 学校・幼稚園・保育所（行事、PTA活動、保護者会等）	マイナス プラス	<p>【知識】・食材の知識、調理の方法など知識も十分とは言えない。</p> <p>【食べること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食を欠食することが多い ・野菜の摂取量が少ない ・野菜の摂取量が不足するなど、食事のバランスが崩れがちである ・インスタント、調理済み食品の利用が多い ・外食の機会が多い <p>【作ること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理技術が未開拓のため、使用する食材や料理がパターン化し、レパートリーが少ない ・家庭の味を作っていく時期であるが、家庭の味、家庭や郷土の料理が伝承されていない。 <p>【食環境】・親の不規則な生活が、子どもの食生活に影響を与える</p> <p>【意識】・食に関心を持つ人が増える ・親として子どもの養育や健康管理に責任感が生じてくる</p> <p>【体験】・子どもと共に、調理体験、農業体験、食の現場見学の機会が増える</p> <p>【情報】・子どもを通じて食に関する情報を得ることができる</p>



<p>思春期、青年期の人々が食育を支援する対象</p> <p>【主な対象】 幼児、小中学生、高校生、大学生</p> <p>【活動の場】 幼稚園、保育園、小中学校 大学 公民館、市民センター 児童館</p>
--

<p>アプローチする主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり ・料理づくり ・生産地、市場の見学 ・産直学習、産直交流 ・食材を見る、触る、栽培、収穫、流通・販売 ・地域や家庭で受け継がれてきた料理、味の伝承 ・食を楽しむためのテーブルセッティング ・帰属する大学、企業等における食育 ・親子向けグリーンツーリズム 	<p>媒体・情報</p> <p>食事バランスガイド、食料自給率、フードマイレージ、地元食材、地元食材加工品、郷土料理、伝統料理、紙芝居、絵本、はし、食器、かるた、食材の写真、カレンダー、クイズ、弁当、ランチ、その他の食育教材・情報</p>
--	---

<p>思春期、青年期の食育を支援する人・場</p> <p>家庭、高校、大学、職場 教員、同僚、友人 スポーツ・サークル団体 公民館、市民センター 食育を推進する団体、NPO 生産者、流通関係者、企業 高校・大学・事業所の食堂 飲食店、コンビニエンスストア ファーストフード店、スーパー 行政</p>

【協議の視点】

- 思春期の高校生、青年の育ちを支援できるような取組としてどんなことが考えられるか。
- 地域とのつながりが弱く、食に関して関心が低い思春期の高校生、青年に対しどのように働きかけるか。つながる接点として考えられること。
- 食を通じたつながりを創り出すために、この世代をどのような形で受けとめることができるか、アプローチする内容等について。